

千大 亥 総 第 294 号
令和 8 年 4 月 13 日

各 関 係 機 関 の 長 殿

千葉大学大学院医学研究院長
三 木 隆 司 (公印省略)

先端研究部門 高次機能治療学研究講座 内分泌代謝・老年内科学
教授候補者の公募について (依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本研究院では、内分泌代謝・老年内科学の教授候補者の選考を行うこととなりました。

つきましては、貴管下で適任者がございましたら、下記により候補者をご推薦下さるようお願いいたします。

敬具

記

1. 選考方針

- (1) 糖尿病・代謝・内分泌内科、老年内科領域における基礎的研究あるいは臨床研究において顕著な業績をあげ、これらの領域で研究を進めるための優れた指導能力を有する者。
- (2) 糖尿病・代謝・内分泌内科、老年内科領域で豊富な知識および経験を有する者。医学部附属病院において、糖尿病・代謝・内分泌内科の診療を科長として実践し、関連診療科と緊密な連携体制を築いて、高齢者医療センターの運営を行える者。また、優れた内科医を育成するための指導ができる者。
- (3) 大学院医学研究院における研究及び大学院医学薬学府 (内分泌代謝学、老年内科学担当) と医学部 [臨床テュートリアル、臨床病態治療学 I (内分泌・代謝・老年医学ユニット)、クリニカルクラークシップ (臨床実習 I)] の教授として大学院生の教育・研究指導と医学部学生の教育に優れた指導能力を有する者。
- (4) 個人あるいはグループでの大型外部資金を獲得する能力を有する者で、科研費 (基盤 B 水準以上) 等の外部資金の獲得実績を有する者。
- (5) 新たな先進的研究、産学共同研究・受託研究を推進し、高引用論文の執筆実績、指導能力を有する者。
- (6) 大学院医学研究院教授にふさわしい人格を有する者。

※本研究院では、任期制を採用しており、任期を 5 年 (再任可) としております (定年 65 歳まで)。

※原則、千葉大学新年俸制給与規程を適用。

※教育研究診療業績、その他の評価が同等であれば、女性の方を積極的に採用します。

2. 応募締切日 令和 8 年 6 月 30 日 (火) 必着

3. 提出書類

- (1) 履歴書 (別添記載上の注意事項参照)
- (2) 業績目録 (別添記載上の注意事項参照)
- (3) 自己紹介 (様式任意) (別添記載上の注意事項参照)
- (4) 研究実績 (様式任意) (別添記載上の注意事項参照)
- (5) 診療実績 (様式任意) (別添記載上の注意事項参照)
- (6) 教育実績 (様式任意) (別添記載上の注意事項参照)
- (7) 応募理由書 (様式任意) (別添記載上の注意事項参照)
- (8) 主要論文別冊 (10論文以内)
- (9) 上記主要論文の要約 (各論文毎に日本語で400字程度)
- (10) 原著論文及び総説のDOI一覧
((2)業績目録「A. 原著」及び「C. 総説」に記載の英文論文) (別紙Excel様式)
- (11) 推薦状 (様式任意) ※署名又は押印
- (12) 以上の(1)～(7)を通し頁としたMS WordファイルおよびPDFファイル並びに
(8)(9)のPDFファイル及び(10)のExcelファイルをコピーしたUSBメモリ
(別添記載上の注意事項参照)

4. 提出先及び問い合わせ先

- (1) 提出先 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院医学研究院長 宛
(郵送は簡易書留とし、「内分泌代謝・老年内科学教授候補者応募書類
在中」と朱書き願います。)
- (2) 問い合わせ先 千葉大学亥鼻地区事務部総務課人事係 (担当: 山田)
TEL043-226-2003 E-Mail: inohana-jinji@chiba-u.jp

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① 学歴は、大学入学以降の学歴、卒後臨床研修歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。

職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。

- ② 免許及び資格には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ 学位には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ 学会活動等は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ 賞罰には、学術活動による表彰等を記入して下さい。

特に、過去に学生等に対するセクシャルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分等を受けた場合には、処分内容及びその具体的な事由を必ず記入して下さい。虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となることがあります。

- ⑥ 年の表示については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① A～Gの各項について記入して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録A～Dには、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。

（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。

（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。

（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。責任著者に印(*)を付してください。

A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。

※併せて、原著論文のDOI一覧（別紙Excel様式）の作成をお願いします。

B. 症例・治験・手技の項には、A、C、Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。

C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。

※併せて、総説（欧文）のDOI一覧（別紙Excel様式）の作成をお願いします。

D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。

- ③ E. 学会発表については、a. 特別講演・シンポジウム等、b. 一般発表（最近5年間の発表総数・主要な発表10題以内）を、それぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。

- ④ F. 研究助成金取得状況については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）財団等の助成金等）に分け、代表研究者分担研究者別に、助成額（直接経費）を明記して下さい。分担研究者の場合は総額と配分額

(直接経費)を明記して下さい。

⑤ G. H-Index については、Google Scholar Citations で調べた数値を記載して下さい。

3. 自己紹介 (様式任意)

経歴と研究を中心に、300字程度で記載して下さい。

4. 研究実績 (様式任意)

現在までの研究の実績について、その経過と成果等を2,000字程度で業績目録の論文リストとは別に記載して下さい。

また、特定臨床研究*については、その件数(責任・分担別)と詳細を記載し、すでに刊行された/受理されて公刊予定となった(in press)特定臨床研究論文を、業績目録の論文リストと同じ形式で列挙してください。

*「特定臨床研究」については千葉大学臨床研究審査委員会のホームページ https://www.ho.chiba-u.ac.jp/crc/rinsyo-kenkyu/public/rinsho_kenkyu.html を参照願います。

5. 診療実績 (様式任意)

これまでの診療の実績・アピールポイントについて記載して下さい。

6. 教育実績 (様式任意)

教育に関する研修歴、主な講義内容、教務・厚生補導等に関する委員歴等その他教育に関する経験、実績等について記載して下さい。

7. 応募理由書 (様式任意)

① 研究、教育(卒後教育を含む)、診療について

今後の抱負を2,000字程度で記載して下さい。

② 教授として研究に関するコンプライアンスの方針と考えについて

400字程度で記載して下さい。

(注) 1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。

2. 上記書類は、原則としてA4版とし、ワード等を用いて作成して下さい。

3. 応募書類は返却いたしませんので、予めご了承下さい。(責任をもって廃棄いたします。)

※USBメモリの作成について

(1) 上記の1. 履歴書、2. 業績目録、3. 自己紹介、4. 研究実績、5. 診療実績、

6. 教育実績、7. 応募理由書を通しページとしたMS Wordファイル及びPDFファイル [ファイル名は「氏名(〇〇〇〇)応募書類、…」]をコピーして下さい。

(2) 主要論文10編以内のPDFファイルには、「氏名(〇〇〇〇)主要論文1.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文2.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文3.pdf」…の様に通し番号を振りつけて下さい。

- (3) 主要論文の要約のファイル名は「氏名 (〇〇〇〇) 要約.pdf」として下さい。
- (4) 原著論文・総説のDOI一覧のファイル名は「氏名 (〇〇〇〇) DOI.xlsx」として下さい。

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba T. Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 2015;48:128-42. doi: 11.1111/j.bbbb.2015.07.999.
2. Inohana J, Nishichiba S, Chiba T*. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res. 2017;25:216-9. doi:22.2222/j.cccc.2017.07.999.
3. Nishichiba S, Matsudo S, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA. 2019;76:3537-41. doi: 33.3333/j.eeee.2019.07.999.
4. Chiba H, Chiba T, Bader D. Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res. 2022;65:1246-51. doi: 44.4444/j.ffff.2022.07.999.
5. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T, Inohana J. Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J Biol Chem. in press
6. 亥鼻次郎、西千葉三郎、千葉太郎、松戸四郎 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 2010;94:456-65.
7. 亥鼻次郎、千葉太郎、西千葉三郎 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 2013;26:2134-9.
8. 亥鼻次郎、西千葉三郎、千葉太郎、松戸四郎 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波. 印刷中

B. 症例・治験・手技

1. Inohana J, Nishichiba S, Chiba T, Matsudo S. Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter Med. 2010;32:875-8.
2. Chiba T, Chiba H. A case of renovascular hypertension: segmental hypoperfusion resulting from single vessel stenosis in the presence of bilateral duplex renal arteries. Jpn Cir J. 2019;56:620-2.
3. 亥鼻次郎、千葉太郎、西千葉三郎 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 2012;65:647-52.

C. 総説

1. Chiba T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 2016;3:191-5.
2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 2017;11:93-8.

D. 著書

1. Inohana J, Chiba T, Nishichiba S. mRNA turnover in Saccharomyces cerevisiae. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 2015:291-327.

2. Inohana J, Chiba T, Nishichiba S. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast *Saccharomyces*: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2017:587-626.
3. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸、亥鼻次郎編、南江堂、東京、2006:1-10.
4. 西千葉三郎、千葉太郎 レセプター遺伝子の発現と合成、レセプター：基礎と臨床、松戸四郎編、朝倉書店、東京、2007:92-105.

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Inohana J, Nishichiba S. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 2016 (Am.J.Hum.Genet.Suppl.2016;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. 2017 (解剖誌.2018;10:379-80.)

b. 一般発表

【欧文 最近 5 年間 (2021 年～現在) の発表総数= 】

1. Inohana J, Chiba T, Kashiwa H. 「Development of Novel Murine Antibody Mediated Rejection Model after Orthotopic Lung Transplant. ISHLT2019 International Society for Heart & Lung Transplantation」 2019.4.3 MINI ORAL 01: Deciphering the Role of Antibodies and Inflammation in Thoracic Rejection
 2. Chiba T, Inohana J, Kashiwa H, Matsuda Y. Activation of 4-1BB signal and co-blockade of PD-1 and TIGIT signaling synergistically enhance melanoma-specific CTL responses during the effector phase. Society for Investigative Dermatology 76th annual meeting, Apr 26 2020, Oregon, USA. (J Invest Dermatol. 2020;137(5) Supplement S1-S192)
 - .
 - .
 - .
- 1 0.

【和文 最近 5 年間 (2021 年～現在) の発表総数= 】

1. 亥鼻次郎、千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 81 回日本消化器病学会. 2019 (日消会誌. 2020;54:46.)
 2. 亥鼻次郎、西千葉三郎、千葉太郎、松戸四郎 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 82 回日本消化器病学会. 2020 (日消会誌. 2020;56:345.)
 3. 千葉太郎、亥鼻次郎 運動初期の換気充進の検討. 第 71 回日本生理学会大会. 2024 (日生会誌.印刷中)
 - .
 - .
 - .
- 1 0.

F. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省（文部省）科学研究費

（研究代表者）

1. 基盤研究（B）「遺伝子発現，蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者，2018-2020年【助成額＝ 】
2. 基盤研究（A）「〇〇〇に関する細胞生物学的研究」研究代表者，2019-2021年【助成額＝ 】

（研究分担者）

1. 基盤研究（B）(2)「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 〇〇大学 大沢 三郎），2016-2018年【助成額（総額＝ ，配分額＝ ）】

b. 厚生労働省（厚生省）科学研究費

（研究代表者）

なし

（研究分担者）

1. 精神・神経疾患研究委託費「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 ××大学 小杉六郎），2014-2016年（厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書. 2015:63-7. 2015年報告書. 2016:50-5. 2016年報告書. 2017:53-8.）【助成額（総額＝ ，配分額＝ ）】

c. その他（共同研究費，受託研究費（治験含む），財団等の助成金 等）

（研究代表者）

1. 受託研究費 「〇〇〇〇〇〇についての研究」研究代表者（△△製薬）【助成額＝ 】
Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein". 2017-2019. (Annual Report. 2017:105-10, 2018:150-5, 2019:161-5.)
2. 〇〇記念財団自然科学研究「〇〇〇に関する研究」研究代表者（〇〇記念財団自然科学研究報告書 2007:187-9.）【助成額＝ 】

（研究分担者）

なし

G. H-Index

H-Index＝

【Google Scholar Citations で調べた数値】

